

# 大谷学会春季公開講演会

日時

5月22日(月)

入場無料

事前申込不要

13時20分～16時10分 (開場:12時50分)

会場

## 大谷大学講堂

京都市北区小山上総町  
(地下鉄北大路駅6番出口すぐ)

### 13時30分～

講題

## ターミナルケア、グリーフケアの現場から考える人生の喜びと悲しみの意味

「死」は人生の一部であることを明白な事実として認識をしていますが、親しく愛する人との死別は辛く淋しいものです。その「死」があるからこそ、生きている間は相互に愛し、支え合い、励ましながら共に生きることが大事なことでないかと、臨床現場から考えております。

講師

## 高木 慶子氏 | 上智大学グリーフケア研究所 特任所長

熊本県生まれ。聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。現職のほか、「生と死を考える会全国協議会」会長、「兵庫・生と死を考える会」会長、一般社団法人グリーフケアパートナー理事、援助修道会会員。受賞歴は、兵庫県「県勢高揚功労」(2015年度)、「カトリック大学連盟カトリック学術研究奨励賞」、「神戸新聞第63回平和賞」、「財団法人兵庫地域政策研究所機構第7回21世紀のまちづくり・研究部門賞」など。三十数年来、ターミナル(終末期)にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々のグリーフケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講演会で活躍中。著書は『喪失体験と悲嘆一阪神淡路大震災で子供と死別した34人の母親の言葉』(医学書院)、『大切な人をなくすということ』(PHP出版)、『悲しみの乗り越え方』(角川書店)、『悲しんでいい～大災害とグリーフケア～』(NHK出版)、『悲しみは、きっと乗り越えられる』(大和出版)、『それでもひとは生かされている』(PHP研究所)、『それでも誰かが支えてくれる』(大和書房)など多数。



### 14時40分～

講題

## 《私》という偶然をめぐって

私がこの《私》であることの根幹は、じつは「たまたま」でしかないのではないのでしょうか。この偶然はいわば究極の「格差」であり、あらゆる苦しみと残酷の源であると同時に、何か途方もない豊穡の源でもあるように思えます。この偶然が何をもたらすかに、お話の中でわずかでも触れることができればと考えております。

講師

## 脇坂 真弥氏 | 大谷大学准教授 宗教哲学・倫理学

1964年広島県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程宗教学専攻満期退学。博士(文学)。東京理科大学理工学部教養教員を経て、2014年より現職。

人生のさまざまな場面に現われる「なぜ私が」という問い、たとえば「なぜ私だけが苦しむのか」「なぜ私がこんなことをしてしまったのか」というような問いは何を問うているのか。この問いに対する答えはあるのか。現在はシモーヌ・ヴェイユを手がかりにしながら、こうした問題を考えている。主な著書に『「いのちの思想」を掘り起こす—生命倫理の再生に向けて』(共著、岩波書店)、『宗教学事典』(共著、丸善出版)、『宗教の根源性と現代(第1巻)』(共著、晃洋書房)などがある。



お問い合わせ先

大谷大学 教育研究支援課 TEL.075-411-8161

▶ 詳しくは大谷大学のWebサイトをご覧ください。

大谷大学

検索